

医学部中庭のリノベーション



東北大学医学部 医学部長 八重樫 伸生

東北大学医学部のある星陵キャンパスでは約1,500人の学部学生が勉強しています。若者ばかりです。毎日の食事をどうするかとか講義や実習の空いた時間をどう過ごすかなどはキャンパス生活のカギとなります。

星陵キャンパス付近は空襲に遭いませんでしたので、私が入学した昭和50年代は戦前からの建物が残っていました。現在、保健学科の講義棟の東側は約100坪の空き地になっていますが、ここには古い学生食堂がありました。木下杢太郎(皮膚科の太田正雄教授)や北杜夫(昭和27年医学部卒業の斎藤宗吉氏)もここで食事していたという話を先輩がしてくれたのを記憶しています。現在の星陵会館(医学部生協)が建ったのは昭和53年です。食堂や喫茶店も入りキャンパス内の食事環境は大幅に改善されました。さらに平成27年の医学部開設百周年の際に改築され星陵オーディトリウムとして各種会合やセミナーにも使われるようになりました。

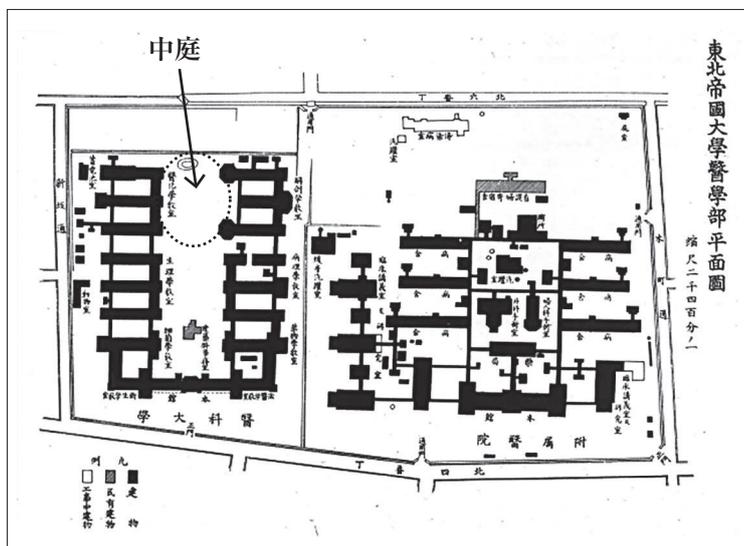
星陵会館の西側には約600坪の松林と池があります。百年前に医学部が現在地に移動した際に個人宅を買収したそうですが、庭をそのまま医学部の中庭として残し、学生や教職員の憩いの場として使われてきました。戦前は四谷用水から池に水を引いていたということですが、現在は湧水を使っています。第18代医学部長で、後に第10代総長となられた黒川利雄先生(内科学)が「掬水(きくすい)の池」と名付けられ、医学部同窓生の心の拠り所となっています。

時代の変遷とともに、周囲の建物がすべて建て替えられたり新築されたりして中庭の面積はだいぶ縮小されました。また樹木の維持

管理も十分に行われてこなかったため、現在は中庭全体が鬱蒼とした印象を与える場所になっています。コロナ禍により学生食堂でも黙食・孤食が強いられ、サークル活動も制限されています。講義や実習が従来のような対面では行えず、学生がキャンパスライフを楽しむことがかなり難しい状況が続いています。

そこで医学部では同窓会の力を借りて医学部中庭の再整備プロジェクトを立ち上げ、医学部学生有志にもお手伝いいただいて3年がかりで完成を目指すことにしました。学生諸君が食事をしたり友人と談笑したりできる庭園に造り替えます。コロナ禍を逆に絶好の機会ととらえ、歴史ある広い中庭のリノベーションをすることで、学生や教職員の憩いの場を取り戻すだけでなく、キャンパスライフを楽しめる空間を創出したいと思います。

医学部学生後援会のみなさまには、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



百年前の医学部

第25回医学祭開催のお知らせ

医学祭実行委員長 井手田 凌

学生後援会会報をご覧の皆様、初めまして。東北大学医学部5年次所属の井手田凌と申します。第25回東北大学医学祭実行委員長を務めております。平素より我々学生に対して多大なるご支援をいただき、ありがとうございます。現在、私達医学祭実行委員会は、第25回東北大学医学祭を2022年10月9・10日の両日に開催すべく準備を進めております。本医学祭は3年毎の開催ではあるものの、70年近い歴史を誇り、地域の皆様に医学に親しんでいただく場を提供してきました。今回の医学祭は、新型コロナウイルスにより人々の生活が大きく変化し、医療への関心が更に高まる中での開催となります。これまで同様、地域の皆様に医療を身近に感じてもらうため、そして、これまでと異なり、新たな技術を生かして様々な地域の方にも企画を届けるため、「Connect ~私と医療と世界と~」をメインテーマに決めました。実行委員一同、感染防止のための議論を重ね、試行錯誤しながら活動しています。私達は学生という成長過程の立場ですが、社会における医学部・歯学部役割を伝えるためにも、地域の皆様と学



生が交流しながら、医学・医療についてお互いの理解を深める行事にしたいと考えております。

今回、この場をお借りして、寄付のお願いを皆様に謹んで申し上げる次第です。皆様からのご寄付は、宣伝費用や企画経費等、医学祭の運営に使わせていただきます。例年、運営費の大部分は皆様からの寄付金によって賄われており、皆様からの温かいご支援がなければ医学祭を成功させることは決してできません。伝統を引き継ぎつつも新しい形の医学祭を作り上げ、成功させるため、何卒ご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

【寄付金募集要項】

- ・用途：第25回医学祭の準備・開催に要する経費
- ・金額：一口5000円（何口でも結構です）
- ・受付：同封の払込用紙にてお振込みいただきたく存じます。また、ご協力いただいた方のお名前や団体名は、医学祭のパンフレットに掲載させていただきたく所存です。もし賛助掲載を希望されない場合、通信欄に「賛助掲載希望しません」とご記載くださいませようお願いいたします。

【問い合わせ先】

第25回東北大学医学祭実行委員会 会計担当

医学部医学科5年 青木航大

メールアドレス：TohokuMedFes@proj.med.tohoku.ac.jp

学生用図書整備および医学分館利用状況について

東北大学附属図書館医学分館長 笹野 公伸

附属図書館医学分館では、星陵キャンパスに所属する学生・教職員の学習・研究・教育に必要な資料やサービスを日々提供しております。特に学生が必要とする図書の充実に向けて努めておりますが、医学書は頻りに改版される上に高額であるため、今年度も医学部学生後援会から学生用図書整備の御支援を賜り、医学科系33冊、保健学科系32冊の図書を購入しました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、本誌前号でご報告した通り、医学分館は昨年5月のリニューアルオープン後、新型コロナウイルスの状況を踏まえ、各種感染症対策を取りつつ、学生等へのサービスを継続しております。特にマスク着用の徹底は強く呼びかけており、かつ、職員が毎日定期的に館内を複数回巡



視して、安心・安全な館内環境の維持に努めております。

リニューアルオープン後としては初めての医療系国家試験を控えた1、2月は、ピーク時で連日のべ700人前後の入館者がありました。館内の閲覧席はほとんどが埋まり、12月までの雰囲気とは全く異なる張り詰めた空気の中、試験対策に真剣に取り組む学生の姿が見られました。当館としても、学生の皆さんに有効に活用していただけることはたいへん嬉しい限りです。職員一同、今後とも資料の充実化および学習環境の整備、サービスの向上に努めて参ります。



学生受賞情報

和田記念賞 (Young Investigator Award) 受賞

2022年1月7日(金)～8日(土)に開催された日本ヒスタミン学会の口頭発表で、機能薬理学分野に所属する医学部医学科3年生の久富宇太さんが、和田記念賞 (Young Investigator Award) を受賞致しました。演題名「膵臓β細胞特異的ヒスタミン3型受容体欠損マウスの解析」



2021年度 医学部学生奨学賞受賞者



- 最優秀賞 小熊 陽 (6年)
Muse 細胞にみる多能性と非腫瘍性を両立させる新たな幹細胞遺伝子ネットワークの解析
- 優秀賞 切替 日奈子 (6年)
Two types of early epileptic encephalopathy in a Pitt-Hopkins syndrome patient with a novel TCF4 mutation
- 優秀賞 石井 佳恵 (5年)
ACTH Stimulation Maximizes the Accuracy of Peripheral Steroid Profiling in Primary Aldosteronism Subtyping
- 優秀賞 清水 弘明 (5年)
超高分解能 MRI の Radiomics 解析による乳癌の腋窩リンパ節微小転移予測モデルの構築
- 奨学賞 秋山 悠歩 (6年)
Association of various myositis-specific autoantibodies with dermatomyositis and polymyositis triggered by pregnancy
- 奨学賞 藤原 翔太郎 (6年)
Sincere Praise vs Flattery (Oseji) : Neuroimaging Study
Different Bully Victimization with Different Brain Structure : Neuroimaging Study
- 奨学賞 影山 宗祐 (6年)
水中環境下での手術用治療器使用 (ウォータージェットメス) により生じる破片の分散の定量評価法の開発
- 奨学賞 古賀 大輝 (4年)
コルチゾール産生腺腫におけるコレステロール受容体の発現と細胞形態像、遺伝子変異との関連性に関する臨床病理学的検討
- 奨学賞 前田 さき (4年)
間質性肺炎合併肺腺癌における癌関連線維芽細胞マーカータンパク発現に関する検討

医学部保健学科検査技術科学専攻のウェアセレモニーが web 開催されました

2021年09月16日、医学部保健学科検査技術科学専攻のウェアセレモニーが、web 開催されました。

八重樫医学部長、大森保健学科長、上月医学部学生後援会長、三浦専攻主任から、激励の言葉と実習心得などのお話がありました。

残念ながらウェア授与は全員にできませんでしたが、学生全員で新しいウェアを着ながら web 参加しました。

会の中では、学生代表の赤澤さんが、

真新しい白衣に袖を通した後に、感謝の心と自覚と探求心を持ち取り組んでいきますと、立派な決意表明もあり、和やかな中にも緊張感のある式となりました。



医学部保健学科放射線技術科学専攻のウェアセレモニーがweb開催されました

2021年09月21日、医学部保健学科放射線技術科学専攻のウェアセレモニーが、web開催されました。

八重樫医学部長、大森保健学科長、坂本放射線技師長、上月医学部学生後援会会長から、激励の言葉がありました。

今回は残念ながらウェアの授与ができませんでしたが、学生全員が新しいウェアを着て参加し、色紙に書いた言葉とともに、実習に向かうにあたっての決意表明を行

ないました。

最後に、学生代表として会場参加した高田さんが、感謝の言葉と決意の表明を行いました。



第12回医学部医学科白衣式報告書

医学部医学科長 石井直人

令和4年1月31日(月)、第12回医学部医学科白衣式が医学部開設百周年記念ホールー星陵オーディトリウム講堂で開催されました。当初は学生全員が対面参加での開催を予定しておりましたが、感染状況の悪化から人数制限を行う方針に変更しました。

来賓に東北大学病院長、看護部長、診療技術部長をお招きし、八重樫医学部長及び学生代表2名が出席し、その他の新5年次学生及び教授、教育担当主任の先生方にはオンラインにて参加いただくことにより、会場における参加者数を極力減らし、COVID-19の感染防止対策を十分に行った上での開催となりました。

白衣式では、医学部長より新5年次学生代表へ大学のロゴマーク入りの白衣が授与され、次いでStudent Doctor認定証および病院カードが授与されました。

学生代表からは、これまで支えていただいた多くの方々への感謝や、医師を目指す者としての責任と心構え、特に

COVID-19の流行する中で最前線に立って実習に臨むことへの決意が述べられました。

今年度もやむを得ずオンライン形式での開催となりましたが、荘厳な雰囲気の中、臨床実習開始の節目としてふさわしい式典となりました。

最後に関係者を代表して、医学部学生後援会からのご援助に心より感謝申し上げます。



読売新聞教育ネットワーク主催の高校生向けオンラインセミナーに参加しました

2021年10月10日(日)、読売新聞教育ネットワーク主催の高校生向けオンラインセミナー「2021 未来の医療を創る君へ」が開催され、東北大学医学部が参加しました。

本学は「未来に求められる、医療をデザインする力」をテーマに画像診断学分野の植田琢也教授、東北大学病院臨床研究推進センターバイオデザイン部門の中川敦寛部門長が講義を行いました。

植田教授は「医療と数理・データ科学の気になる関係」と題し、クイズを交えて参加者とやりとりを進めながらAIの基本的な捉え方から研究現場における活用例や応用への展望を解説、AIが得意なことを理解し実現したいことについて考えることの大切さを語りました。

中川バイオデザイン部門長は「2040年には日本を担っているみなさんへ：カギはみんなで努力する力とテクノロジーを使いこなす力」と題し、2040年以降に予測されている超高齢社会を日本の医療の課題として挙げ、スタンフォード大学留学時に学んだデザイン思考を参考例に、イノベーションを起こしていく環境や人材育成が求められていることを伝え

ました。

講義後はオンライン上の懇親会を開催。講師・若手研究者、東北大学病院卒後研修センターの指導医・研修医、医学科2年

生を中心とした現役医学部生の3グループに分かれて、リラックスした雰囲気での質問や意見交換が行われました。現役医学部生には試験対策や本学を選んだ理由・入学して良かったこと、高校時代の過ごし方のアドバイスなどの質問が寄せられました。

読売新聞教育ネットワーク：<https://kyoiku.yomiuri.co.jp/iryou/>



令和3年度医学科3年次基礎医学修練発表会のご報告

医学科運営委員会委員長

医学科3年次基礎医学修練発表会実行委員会委員長

石井 直人
猪鼻 佑樹

令和3年度の基礎医学修練発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止を最大限配慮した上で、新型コロナウイルス感染拡大以前と同様の現地発表開催となりました。12月23日(木)、24日(金)の2日間、発表会は無事に行われ、発表者は計118名と多くの学生が発表しました。今年度はコロナ禍の中での修練となり、基本的には海外留学はできませんでしたが、約4ヶ月という基礎医学修練の期間で、各学生が各研究室で自分のテーマに沿って研究を進めてまいりました。各々の担当教員の方々によるご指導のもと、研究の難しさや自ら知を作ることの難しさを感じることで貴重な期間でした。本発表会においては、その成果を互いに共有しあう有意義な時間を過ごすことができました。また、学生間で質疑応答を交わす姿が例年以上に多く見られ、今後につながるようなやり取りが見受けられたことも非常に嬉しく感じた次第です。

例年同様、発表会の運営は学生で組織された実行委員会を中心に行い、各メンバーに協力してもらいながら、無事2日間の運営を終えることができました。

優秀な発表をした学生と質問賞を獲得した学生に副賞

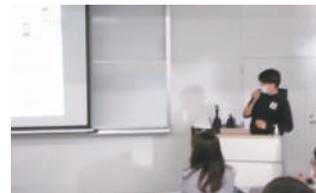
を贈呈することになり、御寄付から拝借いたしました。

今年度の基礎医学修練発表会を無事に運営できたのは、ひとえに学生後援会(PTA)の御寄付及び多くの方々のご支援を賜ったおかげでございます。

関係者一同、多大なるご支援を心より感謝申し上げます。



開会式の様子



口演発表の様子



会場の様子



クラウドファンディング「早期発見と個別治療最適化で、膵臓がんで亡くなる患者さんを減らしたい」募集終了のお知らせと御礼

9月30日23:00をもちまして、クラウドファンディング「早期発見と個別治療最適化で、膵臓がんで亡くなる患者さんを減らしたい」の募集を終了いたしました。

7月2日開始スタートと同時に、大変多くの皆様からご支援と応援のお言葉を賜り、9月30日の終了時点で1001名の皆さまから20,065,000円（第二目標達成）の多大なるご寄付をいただきました。

心から厚く御礼を申し上げます。

膵臓がんの早期発見、および治療の個別最適化に向けて、追加検体の解析、解析結果の確認実験をはじめ、バイオマーカー候補となった分子や、治療効果に関連する分子の機能解析実験に充て、早期診断バイオマーカー、および個別化治療効果関連分子の同定を進めて参ります。



東北大学学生チャレンジクラウドファンディング ともプロ！2021 こころ支える音楽を病院へ！－医学生と音楽家が実践する音楽－

東北大学基金にて、学生向けのクラウドファンディング挑戦企画「ともに・プログラム（ともプロ!）」が立ち上がりました。

「ともプロ!」は、学生が本学を応援して下さる方々の支援を受け「ともに創り、ともに育つ」プログラムです。

医学部医学科3年の宮下琳太郎さんが、2021年12/9(木)～2022年1/31(月)の日程で、企画名「こころ支える音楽を病院へ！－医学生と音楽家が実践する音楽－」でクラウドファンディングを行いプロジェクト目標金額を達成いたしました。

ともプロ!

<https://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/japanese/students/tomopro/tomopro.html>



編集後記

医学部学生後援会（PTA）は、会員の皆様方、学生及び教職員の方々に支えられ14年目を迎える事ができました。心から感謝申し上げます。後援会といたしましては今後も助成及び学生の教育活動への支援などを継続して行い、医学部全体の充実をより一層図っていきたく思っております。

学生後援会事務局（PTA）

- 東北大学大学院医学系研究科・医学部ウェブサイト：
<http://www.med.tohoku.ac.jp/>
- Twitter: https://twitter.com/tohoku_univ_med
- Facebook:
<https://www.facebook.com/Tohoku.University.School.of.Medicine>
- 東北大学医学部学生後援会ウェブサイト：
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>



東北大学医学部学生後援会（PTA）事務局

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
TEL: 022-717-7870 E-mail: med-koen@med.tohoku.ac.jp
<http://www.koen.med.tohoku.ac.jp/>